

「やすまる広場井戸端トーク（平成 29 年度第 1 回まちづくり井戸端座談会）」の
結果について

日 時：平成 29 年 6 月 4 日（日）13：00～14：30

場 所：市民活動支援センター

<入場者>

約 80 名



<掲示内容>

- ・消費者行政推進事業（見守りネットワーク、消費者安全確保地域協議会）
- ・子ども関係（児童虐待防止関係、特別支援教育、いじめへの取り組み）
- ・都市基盤整備について（国道 8 号線野洲栗東バイパス、湖南幹線、雨水幹線）
- ・環境基本計画について（びわマスプロジェクト等）
- ・余熱利用施設について
- ・野洲の観光資源について
- ・介護保険の総合事業について
- ・野洲市民病院について

参加者からの主な意見

【○市民意見、●市回答】

➤ 特別支援教育について（学校教育課）

○障がいのある子の生活のフォローについて、その子にあった状況を把握し、支援のあり方を検討することが必要ではないか。

➤ 国道 8 号線野洲栗東バイパスについて（国県事業対策室）

○片側 1 車線でいいのではないか。

○暫定的に片側 1 車線で開始する予定。後に交通量等見ながら片側 2 車線へ拡大する。

○地理の教科書に載ってもいいほどの自然堤防がある。壊れるのは残念に思う。

●渋滞解消のためには止むを得ない。ご理解いただきたい。

○早く供用開始してほしい。

●遅くても平成 36 年開始と考えている。

➤ 余熱利用施設について（野洲クリーンセンター）

- 高齢になると体の機能が低下してくる。病院で治すのではなく、グラウンドゴルフ・プールなどで健康づくりをすることが大切。市もその視点で考えてほしい。
- 場所が不便で行きにくい。
- クリーンセンターの立地について、余熱利用の機能とセットとすることを前提に全自治会に対し公募を行ったが、有効な応募がなく現在地となった。
- アクセスについては駅からもバスも出すなど、来てもらいやすいように考えている。

➤ 介護保険の総合事業について（地域包括支援センター）

- 自治会は毎年変わるため、総合事業の協力をすることが負担に思うのではないか。
- 今後、社協とともに仕組みづくりに取り組みたい。
- 高齢者の移動の問題は深刻。今後どんどん大変になっていく。高齢ドライバーの事故の問題もあるが、年をとるほどに買い物等車が必要となってくるのが現状である。

➤ 野洲市民病院について（市民病院整備課）

- 病院が無くなると困る。高齢者が増えていくため、市も採算性より市民の安心を考えてほしい。
- 変化が激しい時代に、変化に対応しようとしている姿勢は市民にきちんと見えている。応援している。
- 病院は不便なところに作ってもらっては困る。病院が必要なのは高齢者や子供。便利などころに作る必要があると思う。
- 条例化されているものを予算化しようとしているのにコンセンサスが得られていないというのは、何をバロメーターとしているのか。もう住民投票しかないのではないか。
- 駅前が有効に使えていないという意見もあるが、コンパクト構造は良いと思う。
- 反対派は赤字経営するなら責任とれと言うが、病院が建たなかったら責任をとるのか。共通の場での議論を望む。

➤ その他

- 自治会内に森になっているところがある。なんとかしてもらいたい。
- 以前所有者にお願いに行ったこともあり、認識はしている。（環境課）

- 体育館のジムが混雑しており、広げてほしい。隣の事務所はたまにしか使っていないので、そこを使えないか。
- 控室も必要なので、それをどうするかを考えないといけない。
- 市外の人が多いのも混雑の一因である。湖南4市で協定結んでいるため、市外の金額を高くするわけにもいかない。（生涯学習スポーツ課）

- 駅前は世代を問わず集まれる場所であり、そこに健康を担う機能があればよい。
- 駅前に商業／交流施設の整備を、心と体の健康をコンセプトに進めている。（企画調整課）